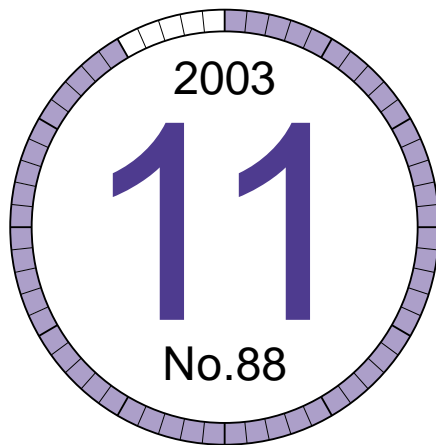


シネマ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

Ciné-là



シネマニュース



特別企画

- ・フィリピン映画祭
- ・ぴあフィルムフェスティバル in 福岡

特別講演

「フィリピンの映画史と文化」



「トゥルンバ祭り」

フィリピン映画祭

約60年間のフィリピン映画史を概観する今回のフィリピン映画祭。現在でも100本近くの作品が製作され、自国の映画がハリウッド映画に拮抗している国フィリピンの、激しく豊かな映画史にご注目ください。

ぴあフィルムフェスティバル in 福岡

自主製作映画の日本最大のコンペティションである「ぴあフィルムフェスティバル」からコンペティション入選作品及び特別招待作品を上映します。



「鳥籠」



特別企画 戦前から、現在までフィリピン映画の歴史をたどる映画祭。

フィリピン映画祭

会期:平成15年11月1日(土)~11月16日(日) 休館日:休映日除く

主催:フィリピン映画祭実行委員会 福岡市総合図書館

協賛:フィリピン航空会社 協力:福岡・フィリピン友好協会

観覧料:600円(大人)500円(大学生・高校生)400円(中学生・小学生)1,500円(3回券)

定員制・各回入替制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

福岡市在住の障害者及び福岡市在住の65才以上の方は300円(手帳の提示が必要です。)


3回券は複数人数で使用できます。

フィリピン映画の史的回顧

今回のフィリピン映画祭は、30年代のミュージカル映画「まことの母」から、フィリピン映画史上最大のヒットとなった「ホセ・リサル」まで約60年間のフィリピン映画史を概観するものです。70年代世界に注目されたリノ・ブロッカ監督やイシュマエル・ベルナル監督、50年代の巨匠ランベルト・アベリャーナ監督、日本占領時代のフィリピンを舞台にした「神のいない三年間」、そして現代フィリピンを代表するマリルー・ディアス=アバヤ監督やマイク・デ・レオン監督作品などにより、過去フィリピンが素晴らしい作品を作り続けてきたことが理解できます。現在でも100本近くの作品が製作され、自国の映画がハリウッド映画に拮抗している国フィリピンの、激しく豊かな映画史にご注目ください。

まことの母 True Mother

11月1日(土)11:00 11月14日(金)14:00

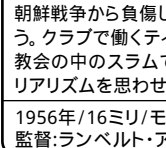


マグダレーナは恋人がいながら、過ちにより別の男の子供を出産してしまう。体面を重んじる父親は、子供を別の貧しい女性に預けてしまう。本作はほぼ完全な形で現存する最古のフィリピン映画で、ミュージカル形式で作られている。子役の子供はフィリピンのチャーリー・テンブルと異名を取った。日本初公開。本作はプリント状態が良くありません。

1939年/35ミリ/モノクロ/96分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:オクタヴィオ・シロス/出演:ロサリオ・モレノ、ルディー・コンセプション

廃墟からの旅立ち The Ruins

11月1日(土)14:00 11月13日(木)19:00




朝鮮戦争から負傷して帰還したヴィクトールは、仕事もままならぬ厭世観にとらわれてしまう。クラブで働くティタはそんなヴィクトールの世話をやくのだった。ティタは廃墟となった教会の中のスラムで暮らしており、役所からは立ち退き命令が出ていた。イタリアのネオ・リアリズムを思わせる作品で、巨匠ランベルト・アベリャーナ監督の代表作。日本初公開。

1956年/16ミリ/モノクロ/119分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:ランベルト・アベリャーナ/出演:トニー・サントス、ローサ・ロサル

ナリ・メ・タンヘレ Touch Me Not

11月6日(木)14:00 11月16日(日)14:00

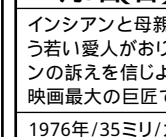


ヨーロッパ留学から帰ってきたイバラは、父が反逆者として獄死していたことを知る。父を陥れたのは、教会の権威者ターマソ神父で、市民の教育のために学校を作ろうとするイバラもまたターマソ神父に狙われるのだった。原作はホセ・リサルによる国民的文学で、フィリピンでは唯一高校や大学の必須図書に指定されている。本作はプリント状態が良くありません。

1961年/35ミリ/モノクロ/180分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:ヘラルド・デ・レオン/出演:エドワルド・デル・マル、エディタ・ピタル

インシアン Insiang

11月9日(日)15:10 11月14日(金)19:00



インシアンと母親は、親戚達とマニラのスラム街に暮らしていた。母親にはダドという若い愛人があり、ダドはインシアンに目をつけ犯してしまう。しかし母親はインシアンの訴えを信じようとしない。インシアンは母親やダドに復讐を決意する。フィリピン映画最大の巨匠であるリノ・ブロッカ監督の社会派映画の傑作。日本初公開。

1976年/35ミリ/カラー/93分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:リノ・ブロッカ/出演:ヒルダ・コロネル、モナ・リサ

特別講演

「フィリピンの映画史と文化」11月9日(日)14:00~15:00

講師:クロデュアルド・デル・ムンド、Jr.(デラ・サル大学コミュニケーション学部学部長) アメリカアイオワ大学でコミュニケーション(映画)を専攻、博士号を取得。「マニラ 光る爪」(75年/リノ・ブロッカ監督)「カカバカバ・カ・バ?」(80年/マイク・デ・レオン監督)などの多数の脚本を執筆。「映画について」「レジスタンス・フィリピンと植民地主義」などの映画研究書を多く執筆している。

特別講演は有料で当日の「インシアン」の観覧料に含みます。

特別企画

自主製作映画の日本最大のコンペティションである「ぴあフィルムフェスティバル」からコンペティション入選作品及び特別招待作品を上映。

ぴあフィルムフェスティバル in 福岡

会期:平成15年11月21日(金)~11月24日(月・祝)

主催:ぴあフィルムフェスティバル in 福岡実行委員会 福岡市総合図書館 PFFパートナーズ


協力:シティ情報ふくおか

観覧料:1,000円(当日1回券)800円(前売り1回券)4,000円(当日5回券)3,500円(前売り5回券)

定員制・各回入替制。障害者及び高齢者割引なし。前売り券はチケットぴあで販売(TEL:092-708-9999)

11月21日(金)13:30 PFFアワード入賞作品

桃色クロス




容子と純は17才の女の子で幼なじみ。別々の高校に通う二人だが、誰よりも仲が良い。二人の部屋と学校の教室だけで描かれる17才の夏。

16ミリ/31分/監督:高橋愛

11月21日(金)16:30 PFFアワード入賞作品


満腹家族



AV女優・なお美と同棲するAV監督・浅野は、悪徳プロダクションに脅され、仕返しを計画する。センスの良いエンターテインメント作品。

ビデオ/73分/監督:広田淳也 PFFアワード音楽賞


はつこい



自分をブスでドジだと思っている岬は、バイト先で知り合った吉田という男に恋をする。二人はつき合うようになるのだが、やさしかった吉田は突然豹変するのだった。

ビデオ/98分/監督:三浦大輔、溝口真希子 PFFアワード審査員特別賞

流れる




ある男の幼い頃の記憶を映像化していく作品。セリフはなく、説明的でもない物語がおとぎ話のように幻想的な映像で語られる。

ビデオ/30分/監督:湯浅弘章 PFFアワード技術賞

11月21日(金)19:00 PFFアワード入賞作品

鳥籠




ある孤児院から一人の少年が脱走する。目的は母親を探すため。名前もわからない母親を探すため少女になって踊る少年。観客は少年と共に旅をし、美しいラストへ導かれていく。

ビデオ/38分/監督:木下雄介 PFFアワード準グランプリ・観客賞

11月22日(土)11:00 PFFアワード入賞作品


頭上家族チャビリアーノ



頭の禿げた中年男の頭上に、宇宙からやってきたマイクロサイズの不思議な生き物、チャビリアーノ一家が降り立った。クレイアニメーション。

ビデオ/9分/監督:キムラヒデキ、久保コレオ、高山達夫


ブルースを4649



修司のロックバンドは、なかなかプロになれず先行き不安だった。大学を出ても働かない修司に父親は厳しく当たる。あたたかさと言説力ある父子の物語。

ビデオ/77分/監督:後藤大輔

えてがみ



僕とナベはかつて一緒に映画を撮る仲間だった。いつしかナベと疎遠になっていた僕は、ナベを主人公にドキュメンタリー映画を作ることにした。

ビデオ/95分/監督:内田伸輝 PFFアワード審査員特別賞

水の中のほくら Speck in the Water

11月2日(日)11:00 11月8日(土)11:00



マニラの南東に広がるラグナ湖に浮かぶ島、サンタ・フェ島。島に住むチェデンは、母親を継いで助産婦になる訓練をしていた。恋人のハミンは島民を船で島から町へ渡す仕事をしていた。チェデンを中心に、島の人々の暮らしが超自然的な雰囲気の中に描かれる。リノ・ブロッカ監督と並びフィリピン映画界をリードしたイシュマエル・ベルナル監督の代表作。

1976年/35ミリ/カラー/118分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:イシュマエル・ベルナル/出演:エリザベス・オロベサ、ジョージ・エストレガン

神のいない三年間 Three Years Without God

11月9日(日)11:00 11月15日(土)14:00

太平洋戦争中日本がフィリピンを支配した3年間(1942年-1945年)を舞台にした作品。日本軍人のマズギは、フィリピン人の女性ロサリオを酒に酔って犯してしまう。しかしマズギはこのことがきっかけでロサリオを愛し、結婚を申し込む。日本軍を描いたフィリピン映画は珍しく歴史的にも貴重な作品であるが、映画としての完成度も高い傑作である。本作はプリント状態が良くありません。

1976年/35ミリ/カラー/120分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:マリオ・オハラ/出演:ノーラ・オノール、クリストファー・デ・レオン

マニラ・バイ・ナイト City After Dark

11月2日(日)14:00 11月13日(木)14:00



今は主婦だが昔は娼婦だったヴィルジー。うるさい母の元を去りゲイのマナイと同居するアレックス。何人もの恋人を持つ運転手のペドロ。看護婦と偽って売春をするアデなど、大都市マニラの夜の片隅で生きる人々の群像を生き生きと描き出した傑作。「フィリピンのイメージが悪くなる。」とイメルダ・マルコス夫人の逆鱗に触れ、数カ所カットの上、改題させられている。

1980年/35ミリ/カラー/151分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:イシュマエル・ベルナル/出演:チャリト・ソリス、アルマ・モレノ

トゥルンバ祭り Turumba

11月7日(金)19:00 11月16日(日)11:00

フィリピンの田舎町で行われるトゥルンバ祭りを描いた作品。少年ガトゥのおばあさんは馬や犬のマスクを家族で作って祭りで販売していた。ある日ドイツのデパートのバイヤーが来て、大量の注文を出す。家族は大騒動となる。一貫して自主製作で映画を作るキッドラット・タヒミック監督の秀作で、手作りのほのぼのとした暖かさを感じさせる。

1983年/16ミリ/カラー/87分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:キッドラット・タヒミック/出演:ホーマー・アビアド、イニゴ・ヴァイト

11月22日(土)14:00 PFFアワード入賞作品



Have a Good Journey

ある女が元カレ・キクチとの思い出話を語る。引きこもりがちだったキクチを外出させるようにするため、彼女は殺人計画を持ちかける。計画は成功するが...

ビデオ/35分/監督:小林雄介 PFFアワード審査員特別賞



美女缶

大学生の健太郎は隣の不細工な男の部屋から、美女が次々と出てくるのを見つける。不審に思い隣室に侵入した健太郎は、美女を産む缶詰・美女缶を発見する。

ビデオ/61分/監督:箕昌也 PFFアワード企画賞

巨匠達のファーストステップ~リンチとフランスの監督たち~

11月23日(日)11:00

「ツイン・ピークス」等のデビット・リンチ監督、「アメリカ」のジャン・ピエール・ジュネ監督、「髪結いの亭主」のパトリス・ルコント監督など世界的な巨匠達の初期短編を上映。

Six Men Getting Sick 67年/監督:デビット・リンチ
The Alphabet 68年/監督:デビット・リンチ
回転木馬 79年/監督:ジャン・ピエール・ジュネ
不安工房 71年/監督:パトリス・ルコント
トランジット 86年/監督:セドリック・クラビッシュ

ロジャー&ミー 11月23日(日)14:00

ムーア監督の故郷、ミシガン州フリント。自動車会社GMの独断的経営で工場は移転を決定。街には3万人の失業者があふれた。ムーア監督はGMの会長ロジャー・スミスに面会を求めるがことごとく断られる。ニューヨーク批評家協会賞ドキュメンタリー賞等受賞。

1989年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/90分/監督:マイケル・ムーア

THE BIG ONE 11月23日(日)16:30

全米では多くの労働者が失業しているのに、ナイキのインドネシア工場では児童までもが低賃金で働いている。これがアメリカの繁栄を支える事実であることを突き止めたムーア監督は、ナイキの会長フィル・ナイトに突撃取材を試みる。

1997年/ビデオ/カラー/ドキュメンタリー/90分/監督:マイケル・ムーア

シスター・ステラ・L Sister Stella L

11月3日(月・祝)11:00 11月8日(土)17:00

修道女シスター・ステラ・Lは未婚の母親を助ける仕事をしていたが、ある日労働者のストライキに巻き込まれ、プラカードを持って先頭を歩く。それ以後彼女は労働者の支援活動に積極的に参加するようになる。宗教と政治の問題を描いて論争を巻き起こした作品で、現代フィリピン映画を代表する監督の一人マイク・デ・レオン監督の80年代の代表作。

1984年/35ミリ/カラー/104分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:マイク・デ・レオン/出演:ウィルマ・サントス、ジェイ・イラガン

少女ルーベ World on My Shoulders

11月8日(土)14:00 11月15日(土)11:00



貧しい家庭の少女ルーベは肩担いで暮らしていたが、ある日歌手のオーディションを受けて見事優勝する。クラブで歌手として働くことになったルーベだが、先輩の歌手ルーフィーは、若いルーベの人気をねたみ追い出そうとする。現在もトップスターである歌手のシャロン・クネータを主演にしたスター誕生物語。

1986年/35ミリ/カラー/127分/フィリピン/日本語字幕付き/
監督:リノ・ブロッカ/出演:シャロン・クネータ、ロレッタ・マルケス

フロール事件 The Flor Contemplacion Story

11月7日(金)14:00 11月15日(土)17:00

シンガポールでメイドとして働くフロールは、事故で子供を死なせてしまう。警察で拷問を受け、子供を殺害したという虚偽の自白をさせられたフロールは、有罪判決を受ける。そしてフィリピン政府の抗議にもかかわらず、95年死刑に処せられる。実際に起こった事件をもとに製作された作品で、フィリピンの抱える社会問題に迫っており、この年の大ヒット映画となった。

1995年/35ミリ/カラー/123分/フィリピン/日本語・英語字幕付き/
監督:ジョエル・ラマガン/出演:ノーラ・オノール、フリオ・ディアス

ホセ・リサル Jose Rizal

11月3日(月・祝)14:00 11月12日(水)14:00



フィリピン独立の英雄として称えられるホセ・リサル(1861-96)の生涯を描いた歴史大作で、フィリピン独立100周年を記念して製作されている。スペイン政府により反逆者として捕らえられ、処刑されるまでのホセ・リサルが、彼の小説の主人公達と重なるように描かれており、革命家・芸術家として生きるホセ・リサルの姿に迫ろうとしている。フィリピン映画史上最大のヒットとなった映画。

1998年/35ミリ/カラー/173分/フィリピン/日本語・英語字幕付き/
監督:マリル・ディアス=アバヤ/出演:セサル・モンタノ、ハイメ・ファブレガス

11月22日(土)16:30 PFFアワード入賞作品



あのコがいねえ

大学生の山ちゃんサンディーという素敵な女の子に恋をする。しかし彼女は街一番のワルの女で、友だちは山ちゃんを止めようとするのだが、山ちゃんは彼女以外目に入らない。

ビデオ/29分/監督:高柳元気



NEG, WONDERLAND(ネガ・ワンダーランド)

数年間植物人間状態だったキリコが目覚めると、父と母はずでに亡く、音信不通だった姉のマリエが家に戻っていた。平然とする姉と違い、キリコはなかなか現実を受け容れられない。

ビデオ/60分/監督:上田大樹 PFFアワードグランプリ・コミュニティ賞

巨匠達のファーストステップ~韓国人気監督達~

11月24日(月・祝)11:00

「八月のクリスマス」のホ・ジ/監督、「我らの歪んだ英雄」のバク・ジョンウォン監督、「おばあちゃんの家」のイ・ジョンハン監督など韓国の若手監督達の韓国映画アカデミー卒業制作作品を上映。

10分間 85年/監督:バク・ジョンウォン
僕の名前はサンウ 88年/監督:イ・ジョンハン
コチョルのために 93年/監督:ホ・ジノ
支離滅裂 95年/監督:ボン・ジュノ
クー氏のカメラ 89年/監督:イム・サンス

バーバー吉野 11月24日(月・祝)14:00

「星ノくん・夢ノくん」でPFFアワード2001に入選した荻上直子監督のPFFスカラシップ作品。のどかな田舎町、この小学生はみな「バーバー吉野」で散髪するため、みな同じ「吉野ガリ」という髪型をしていた。ある日東京から茶髪の転校生がやって来る。彼は「吉野ガリ」を拒否し、大問題へと発展していく。

2003年/35ミリ/カラー/96分/監督:荻上直子 第13回PFFスカラシップ作品

牛頭 ござ 11月24日(月・祝)16:30

ヤクザの南は兄貴分である若頭の尾崎を慕っているが、最近の尾崎は奇行が続いていた。そんな尾崎に恐れをなした親分は、南に尾崎を処分するように命じるが...。三池監督自ら「自主映画」と呼ぶ作品で、スタッフが楽しみながら作った怪作である。

2003年/ビデオ/カラー/129分/監督:三池崇史/出演:哀川翔、菅根英樹

11月 上映スケジュール

1	土	【11:00】まことの母 【14:00】廃墟からの旅立ち
2	日	【11:00】水の中のほくら 【14:00】マニラ・パイ・ナイト
3	月	【11:00】シスター・ステラ・L 【14:00】ホセ・リサル
4	火	休館日
5	水	休映日
6	木	【14:00】ノリ・メ・タンヘレ
7	金	【14:00】フロール事件 【19:00】トゥルンバ祭り
8	土	【11:00】水の中のほくら 【14:00】少女ルベ 【17:00】シスター・ステラ・L
9	日	【11:00】神のいない三年間 【14:00】特別講演 【15:10】インシアン
10	月	休館日
11	火	休映日
12	水	【14:00】ホセ・リサル
13	木	【14:00】マニラ・パイ・ナイト 【19:00】廃墟からの旅立ち
14	金	【14:00】まことの母 【19:00】インシアン
15	土	【11:00】少女ルベ 【14:00】神のいない三年間 【17:00】フロール事件
16	日	【11:00】トゥルンバ祭り 【14:00】ノリ・メ・タンヘレ
17	月	休館日
18	火	休映日
19	水	休映日
20	木	休映日
21	金	【13:30】桃色クロス/はつこい 【16:30】満腹家族/流れる 【19:00】鳥籠/ブルースを4649
22	土	【11:00】頭上家族/チャビリアー/えてがみ 【14:00】Have a Good Journey/美女 【16:30】NEG WONDERLAND/あのこが
23	日	【11:00】巨匠達のファーストステップ - リンチとフランスの監督たち - 【14:00】ロジャー&ミ - 【16:30】THE BIG ONE
24	月	【11:00】巨匠達のファーストステップ - 韓国人気監督達 - 【14:00】バーバー吉野 【16:30】牛頭 ござ
25	火	休館日
26	水	休映日
27	木	休映日
28	金	休映日
29	土	休映日
30	日	自主上映「船を降りたら彼女の島」

アーカイヴ News

フィリピン映画祭について

今回は11月1日からシネラで開催される「フィリピン映画祭」の中から、ぜひご覧いただきたい注目の作品について、少し紹介します。

福岡市総合図書館で平成13年度から14年度にかけて、フィリピン映画の収集を行いました。この中には日本初公開となる作品も何本か含まれています。まず「まことの母」は1939年の作品ですが、日本で戦前のフィリピン映画が上映されるのもおそらく初めてでしょう。この作品は、オーストラリアのフィルムアーカイヴが現存するプリントからネガを作成し復元した作品です。現在ほぼ完全な形で現存する最古のフィリピン映画という貴重なものです。歌がたくさん含まれたミュージカルで、主役で登場する子役のティタ・デウランの愛らしさが光ります。

「廃墟からの旅立ち」は1956年の作品で、朝鮮戦争が終わった頃を舞台としています。フィリピンから多くの兵士が朝鮮戦争に参加していたことが分かりますが、同時に戦後すぐの荒廃したフィリピンの街から立ち上がるという人々が描かれます。イタリアのネオ・リアリズムの雰囲気と、ギャング映画をミックスしたような物語で、この作品は70年代のリノ・ブロッカ監督等の作品に通じるものがあります。

フィリピン映画最大の巨匠といえりノ・ブロッカですが、今回日本初

公開となる「インシアン」を上映します。この作品はカナヌ映画祭に出品され、ブロッカの名前を国際的なものにしました。今でも若い監督がオマージュを捧げる伝説の作品です。この作品はすでにフィリピンにはなく、フランスの会社から購入しました。

もう一本、注目していただきたい作品が「神のいない三年間」です。1942年から45年という日本軍がフィリピンを占領した時代を描いています。日本軍人のごちなさにはしかたのないところですが、フィリピン人の母親と日本人の父親を持つマスキという軍人が、フィリピン人女性を真剣に愛し、結婚するという物語です。残虐な日本軍人の姿は、これまで多くアジア映画に描かれていましたが、これは異色の作品といえるでしょう。作品的にも素晴らしいので、これまで東京で1度上映されただけです。ただし残念ながらプリントの保存状態が悪く、もともとカラー作品であったのですが、ほとんど色はなくなってしまっています。この作品もネガは存在せず、このまま放置すれば数年で上映さえも不可能になるところだったので、今回図書館でネガを作成してプリントを購入しました。素晴らしいアジア映画の保存について、映画を見ながら一考していただければ幸いです。

その他にもバイタリティー溢れる名作の数々をラインアップしています。ぜひご鑑賞ください。



インシアン

インフォメーション

シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成15年12月号～平成16年4月号(3月発行)までの郵便切手(90円×5ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申込ください。

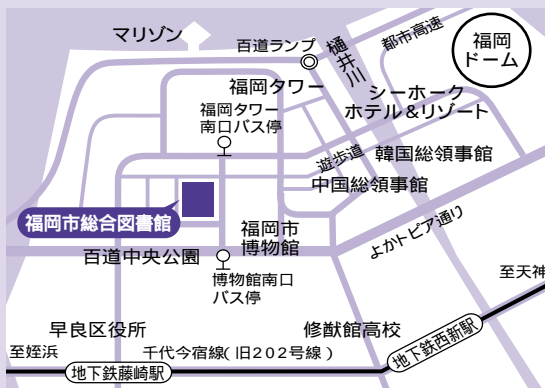
宛先:〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研究室のご案内

ビデオ研究室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

団体の自主上映について

平成15年11月30日(日)「船を降りたら彼女の島」(監督・脚本:磯村一路) 11:00～13:00映画上映 / 13:15～14:45トーク / 15:00～17:00映画上映
観覧料 / 一般前売券:1,200円(当日:1,400円、シニア:1,000円)
主催 / 福岡映画サークル協議会(TEL781-2817)
*自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせください。



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間:昼間で約20分) 博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間:昼間で約25分)

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話:733-3333)に直接お問い合わせください。

公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので長時間の駐車はご遠慮いただいております。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力をいただきますようお願いいたします。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609
福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

デザイン / 株式会社ホワイトスペース 印刷 / 株式会社修文堂印刷

100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。